テーマ名　授業の中で育てる地域愛

学校名　北海道阿寒高等学校
校長名　植村泰雄
担当者　山上祥吾

１　趣旨・本校の ESD の特徴

本校は全校生徒６３名の小規模校である。１学年１クラスで、落ち着いた学習環境の中で学習することができている。幼稚園・小学校・中学校・高等学校のつながりを深めるため、四校連携委員会という教職員組織が設立されており、幼稚園から高等学校までのつながりが深い。また、近隣には釧路湿原や阿寒湖など雄大な自然や文化を学習する環境も整っている。そのため、本校では「地域に関する学習」「文化・環境に関する学習」「食に関する学習」などが本校の ESD の特徴ということがいえる。

２　活動・全体計画

	Ⅰ．事前学習	Ⅱ．実践	Ⅲ．まとめ
地域巡検（１年） <地歴公民科・理科>	釧路湿原について ・国立公園について ・湿原ができるまで	北斗遺跡散策 下久著呂川散策	定期テスト レポート
地域巡検（２年） <地歴公民科・理科>	阿寒湖について ・マリモについて ・外来種について	阿寒湖散策 ウチダザリガニ調理実習	定期テスト レポート
シカ肉調理実習 <家庭科>	シカ肉について	シカ肉調理実習 ①カツ丼②生姜焼き③オムライス④カレー⑤ねぎソース⑥ミートスパゲティ⑦ラザニア⑧そぼろ丼	ポスター掲示 スライドを用いた発表
台湾見学旅行 <総合的な学習の時間、行事>	見学旅行に向けて ・中国語 ・台湾について	見学旅行 ・台北市立中正高級中学での生徒交流 ・現地大学生との交流と自習研修　等	報告書作成 スライドを用いた発表

３　活動事例

地域巡検では、近隣の２つの国立公園である「釧路湿原国立公園」と「阿寒国立公園」について事前学習と現地見学（体験も含む）を通して自然の雄大さや環境保全、文化の継承などの大切さを学ぶ授業である。「地歴・公民科」「理科」の授業を利用して行う。１学年は「釧路湿原国立公園」にある北斗遺跡資料館や温根内ビジターセンターを訪れ、湿原について学習した。また、下久著呂川の浸食についても理解を深めた。２学年は「阿寒国立公園」にてマリモの生態系について学ぶとともに、マリモの天敵と知られている外来種「ウチダザリガニ」を実際に調理して食べ

るという体験をした。

３学年選択授業である「フードデザイン」では栄養素や献立について学ぶとともに、地元食材であるシカ肉の特徴を学習し、それを用いた調理実習を行っている。今年度はシカ肉カレー、シカ肉の生姜焼き、シカツ丼（シカ肉のカツ丼）など全８品をつくって試食した。学習の成果は学校祭時にポスターにまとめ掲示し、年度末にはスライドにまとめて発表するなど学校内外への情報発信も行った。

台湾見学旅行では、２学年２４名が４泊５日の見学旅行を行った。事前学習として、台湾とはどのような国なのかについて事前学習するとともに、白糠高校との学校間交流における教員派遣を受け、中国語を２時間に渡り学習した。現地では、台北市立中正高級中学を訪問し、高校生（全校生徒１２００人程度のうち６０名程度）と交流し、フェンシングと太極拳等の実演披露を受け、歓迎を受けた。おりがみで鶴の折り方を教えたり、本校の特色の一つであるYOSAKOI部による演舞も披露したりして交流を深めた。自習研修では台湾の大学生によるガイドを受けながらの台湾の人気スポット等を訪れるという有意義なものとなった。台湾での文化に触れ、自分達の住んでいる地域のことを紹介するなどの経験をしながら様々なことを学んだ。

４　成果と課題

授業に参加した結果、①昔の人が守ってくれていた自然の中で今の自分が生きているという「人々のつながり」や、②学校で学習したことが他教科や生活の中で活用できるという「教科と教科のつながり」あるいは「教科と生活のつながり」などの考えが深まった生徒がいる。また、教員間の中でも教科と教科のつながりを意識した教育課程が編成されるなどESDの考え方を取り入れることで、授業改善につながった例もある。

一方で、まだまだ断片的な理解で終わっている生徒も多く、特に「短期集中の試験勉強」になりがちで、「１年生に習ったことを２年後３年後の自分に活かす」というような長期的で連続的な理解が乏しいのも事実である。今後は学んだことを一元化できるような工夫や学習後の振り返りを丁寧に行えるような時間の設定や授業づくりが課題となる。地元就職や進学のために一時的に地元を出ても、いつかは地元に戻ってくるような地域愛の強い生徒の育成を今後も目指していきたい。